

| | | | | |
|----------|-------------------------|----------------|---------|------------|
| 熊本高等専門学校 | 開講年度 | 平成29年度(2017年度) | 授業科目 | インターンシップII |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | 0103 | 科目区分 | 専門 / 選択 | |
| 授業形態 | 実験・実習 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 1 | |
| 開設学科 | 生産システム工学専攻 | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 通期 | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | 特に定めない | | | |
| 担当教員 | 小田 明範,木場 信一郎,岩坪 要,大島 賢治 | | | |

到達目標

機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、生物工学、応用化学に区分される専門分野のそれぞれに深く関わりを持つ、企業、公共機関、大学院・大学などにおける就業体験、キャリア形成のための研究体験を通して、学生自らが目指す専門分野について以下の能力を身につける。

- 他のメンバーと協調して、課題に取り組むことができる。
- 企業等の活動を通して、技術者がなしうる社会貢献について説明できる。
- 参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録を残すことができる。
- 記録をもとに、その目的及び概要を理解し、その内容をレポート等でまとめることができる。
- 学外での実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行うことができる。

ループリック

| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 |
|---|---|---|----------------------------|
| 他のメンバーと協調して、課題に取り組むことができる | チームの中で協調性を発揮し、課題に取り組むことができる | 他のメンバーと協調して、課題に取り組むことができる | 受け入れ先からの問題指摘があつた |
| 企業等の活動を通して、技術者がなしうる社会貢献について説明できる | 技術者がなしうる社会貢献について、社会への影響を考慮して説明できる | 企業等での活動を通して、技術者がなしうる社会貢献について説明できる | 企業等で体験した活動の社会的意義について説明できない |
| 参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録を残すことができる | 参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録により、実務の内容を分析することができる | 参加したインターンシップ等の学外での実務経験の記録を残すことができる | 実務経験の記録を整理して、残すことができない |
| 学外での実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行うことができる | 学外での実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる | 実務経験の内容を、聞き手の理解を促すように工夫してプレゼンテーションを行うことができる | 工夫してプレゼンテーションを行うことができない |

学科の到達目標項目との関係

JABEE基準 (i) 専攻科到達目標 4-3 専攻科到達目標 4-4

教育方法等

| | |
|-----------|--|
| 概要 | インターンシップを利用した企業や官公庁等学外での研修・実習は、実務を経験する貴重な機会であり、専攻科における学習・教育に多大な効果が期待される。 |
| 授業の進め方・方法 | <p>本科目では学内での講義や実験・研究とは別に、機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、生物工学、応用化学のうち、学生が目標とする1つの専門分野において、自主的に参加した学外での様々な実務経験を単位として認定する。上記6専攻区分のうち、学生が主体的に選択した1つの専門分野において認定する実務経験は、主として以下のケースである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業での実習 ・官公庁等での実習 <p>いずれの場合も単位の認定には、実習期間5日以上、インターンシップ証明書の提出、実習報告書の提出、インターンシップ報告会での発表が必要である。</p> <p>なお、実施された期間によって1単位（5日以上9日まで）、2単位（10日以上14日まで）、3単位（15日以上19日まで）、4単位（20日以上）とする。</p> <p>単位は、2年次学年末に認定する。</p> <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目は開講期間にかかわらず実施可能。 2. 実施にあたっては、必ず事前に計画などについて打ち合わせを行うこと。 3. 実施後は、必ず報告を行うとともに、実施内容のレポート作成を行うこと。 |
| 注意点 | <ul style="list-style-type: none"> 授業では得られない実務上の経験を経て、その後の研究や授業への取り組み、進路の選択などに活かせるよう、インターンシップでは目的を持って自主的かつ積極的に活動すること。 1日の実習に対して、実習に従事する時間以外に1時間相当以上の自学学習を行うこと。 機会を見つけて積極的に学外の色々な実務を経験する事により、自分自身の持つ基礎力と実践力を高めてほしい。 ・学習・教育到達目標への対応：(4) 4-3, 4-4, (5) 5-2 |

授業計画

| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
|--|---|------|----------|
|--|---|------|----------|

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|----|----|------|-----------|-------|-----|
|----|----|------|-----------|-------|-----|

評価割合

| | インターンシップ証明書 | 報告書 | 報告会 | 合計 |
|---------|-------------|-----|-----|-----|
| 総合評価割合 | 25 | 50 | 25 | 100 |
| 専門的総合能力 | 25 | 50 | 25 | 100 |